

令和4年度 第1回岡山市総合教育会議

日 時：令和4年5月20日（金）

午後3時30分～

場 所：岡山市役所本庁舎3階 第3会議室

会 議 次 第

1 開 会

2 協議事項

- ・今後の教育の方向性

3 閉 会

自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子どもの育成

育む5つの力「活用力」「表現力」「向上心」「社会性」「人権尊重の精神」

第1回総合教育会議資料
令和4年5月20日
教育委員会

4つの指標

自分の考えを整理して伝えることができる児童生徒の増加 (参考資料①)

全国学力・学習状況調査の記述式問題の正答率の対全国比が小・中学校ともにほぼ全国平均レベルになった。

小学校 1.03 (H28) →1.01 (R3)
中学校 0.89 (H28) →0.98 (R3)

情報を収集し、考えをまとめて発表している児童生徒の増加 (参考資料②)

探究的な学習をしていると感じる児童生徒の割合が、中学校で全国平均レベル以上になり、特に中学校で探究的な学習が充実している。

小学校 71.5% (R3) <全国73.0%>
中学校 73.0% (R3) <全国70.2%>

協力しようとする児童生徒の増加

(参考資料③)

協力して取り組んだことがうれしいと感じる児童生徒の割合が、小・中学校ともに上昇しており、人と豊かに関わる学習の充実が、児童生徒の意識につながっている。

小学校 89.5% (R1) →93.8% (R3)
中学校 83.9% (R1) →94.0% (R3)

人を大切にできる児童生徒の増加

(参考資料④)

人が困っているときに進んで助けると考える児童生徒の割合は、小学校で微減、中学校で微増となった。特に、小学校では、気持ちはあるが行動につながっていないことや、自覚できていない可能性がある。

小学校 86.6% (R1) →85.7% (R3)
中学校 84.6% (R1) →86.5% (R3)

基礎としての2つの目標

全国平均レベル以上の学力 (参考資料⑤)

全国学力・学習状況調査の偏差値(国語と算数・数学の平均値)が50以上になり、全国平均レベル以上の学力が付いている。

小学校国語 50 (H28) →50 (R3)
小学校算数 50 (H28) →50 (R3)
中学校国語 48 (H28) →50 (R3)
中学校数学 48 (H28) →50 (R3)

新規不登校児童生徒の減少

(参考資料⑥⑦⑧⑨)

新規不登校児童生徒(小・中合計)の出現率は、全国平均を下回っているものの年々高くなっている。不登校の要因のうち学校に係る状況では、「友人関係」や「学業の不振」が多い。

小・中合計 0.90 (R2) <目標値0.47>

○児童生徒が議論し合う活動の質の向上を図る。

○個に応じた指導を推進する。

○児童生徒が自分の考えを表現したり、理由を説明したりする学習活動の充実を図る。

○情報活用能力の育成に向けた、1人1台端末を使った9年間の系統的な指導を推進する。

○育んだ心を児童生徒の実感につなげる取組を推進する。

令和4年度の重点的な取組

魅力ある授業づくり推進事業

- ・授業改善資料「授業これからは！」の活用(自分の考えを表現したり、理由を説明したりする学習活動の充実)
- ・学力調査と質問紙調査の結果に基づく個々の課題に応じた支援

問題行動等の防止及び解決に向けた総合支援事業

- ・支援計画や質問紙調査を活用した問題行動や不登校の未然防止に向けた取組
- ・スクールカウンセラー、不登校児童生徒支援員等の配置による個々の課題に関する相談・支援体制の充実

GIGAスクール構想によるICT活用支援事業

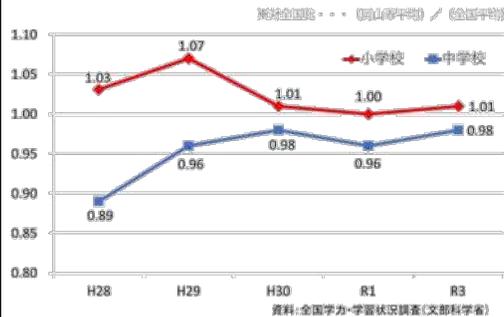
- ・中学校区ごとの「情報活用能力育成カリキュラム」に基づく計画的かつ系統的な指導の充実
- ・1人1台端末の持ち帰りによる家庭学習でのICT活用

地域と学校協働活動推進事業

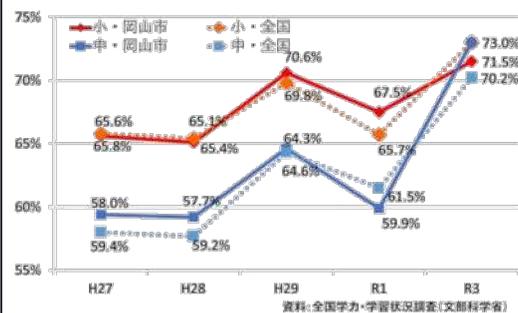
- ・「地域未来塾」等の取組によって、小中学生を対象に、地域住民の協力による学習支援を実施

4つの指標

①全国学力・学習状況調査の記述式問題の正答率の対全国比
(小学校の国語と算数、中学校の国語と数学を平均した値)



②探究的な学習をしていると感じる児童生徒の割合



③協力しようとする児童生徒の割合【参考】

	R1	R3
小	89.5%	93.8%
中	83.9%	94.0%

R3は『楽しいと感じる』と質問が変更されているため、参考として扱う。

資料: 全国学力・学習状況調査(文部科学省)

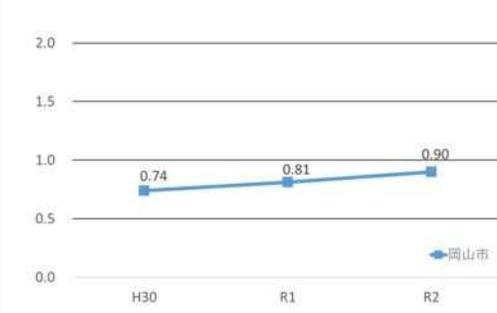
⑤全国学力・学習状況調査の偏差値

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
小・国語	50	51	50	51	未実施	50
小・算数	50	50	50	50		50
中・国語	48	49	49	50		50
中・数学	48	49	49	50		50
中・英語	-	-	-	49		-

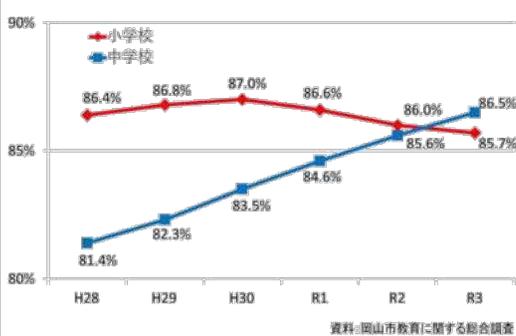
※H28～H30の偏差値については、B問題(主として「活用」に関する問題)の結果
英語はR1のみ実施

資料: 全国学力・学習状況調査(文部科学省)

⑥新規不登校児童生徒の出現率



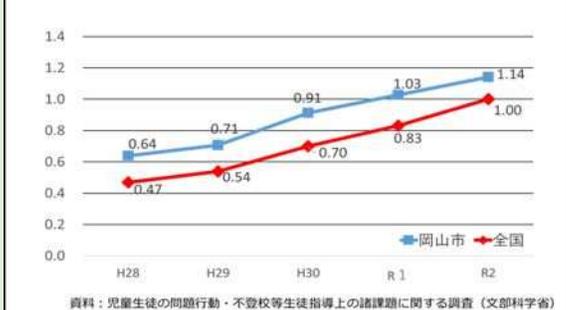
④人が困っているときに進んで助ける児童生徒の割合



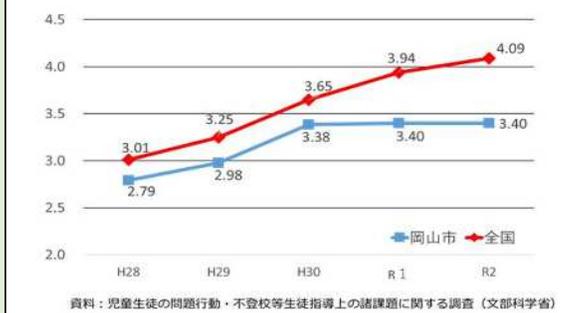
基礎としての2つの目標

参考資料

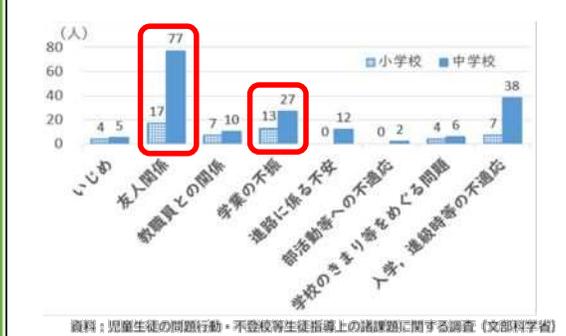
⑦不登校児童の出現率



⑧不登校生徒の出現率



⑨不登校の要因(学校生活に係る状況) R2 岡山市



岡山市が目指す学校教育

岡山県全体と岡山市では、子どもの置かれている状況や課題が異なる。

第1期教育大綱策定前の岡山市の子どもが置かれていた状況

- ・子どもの学力は、全国平均を下回り、考える力が育っていなかった。
- ・教職員は、一生懸命取り組んでいるが、個々の力量に委ねられる部分があった。

岡山市の子どもや教職員の実態を踏まえ、岡山市独自の目標を掲げた第1期教育大綱を策定し、学校教育の変革に取り組んだ。

第1期教育大綱（平成29年度～令和2年度）での取組

- ・総合教育会議で繰り返し議論して、第1期教育大綱を策定した。
- ・教育大綱で、具体的な数値目標を明確にし、教育委員会と学校・教職員が同じ方向性をもって、一体的に取り組んだ。

教育委員会と学校・教職員が一体となって取り組み、成果が得られたため、次のステップへ。

第1期教育大綱による取組の成果を踏まえ、第2期教育大綱（令和3年度～令和7年度）策定

- ・学力が全国平均レベルになり、基礎的な知識が身に付いてきた。
- ・総合教育会議で、校長会を交えて議論を繰り返し、第2期教育大綱を策定した。
- ・教育大綱に掲げる「個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」の実現に向けて、新たな数値目標を明確にし、学校・教職員と一体となって取り組んでいる。

岡山市が目指す学校教育推進のために

岡山県の施策・事業が岡山市立学校（義務教育に限る。以下同じ。）に適用されていないことを明確にするため、岡山県の計画（目標・指標）から、岡山市立学校を除いていただきたい。

理由1 政令指定都市である岡山市は、岡山市立学校に関する給与等の財源及び人事・組織に関する権限を所管し、岡山市の計画に沿って事業を展開しているため。

岡山市立学校に関する権限

平成29年の制度改正により、政令指定都市である岡山市立学校に関する岡山県の権限は、次に掲げる関与（※）に限られており、それ以外の権限は全て岡山市が有している。

- ・教育に関する事務の適正な処理を図るための指導、助言又は援助（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第48条）
- ・教科用図書の採択に係る指導、助言又は援助（義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第10条・13条）

※『【逐条解説】地方教育行政の組織及び運営に関する法律』より抜粋

「指導・助言・援助は自治法245条の4第1項の助言・勧告と同様、法的拘束力を持たない非権力的な関与である」

理由2 岡山市の学校教育に係る計画については、岡山市としては、総合教育会議内での議論だけでなく、市校長会等と繰り返し協議して策定してきている。教職員も、その経緯を踏まえて子どもたちを指導しており、岡山市との間の議論を経ないまま、県の計画が岡山市立学校に適用されるというのであれば、混乱が生じるため。

策定後は、教育長を中心とした教育委員会の学校訪問により、学校運営・授業改善の取組状況や課題についての指導助言を直接行うなど、岡山市が目指す子どもの姿の実現に向けて、共通理解のもと、一体となって取り組んでいる。

岡山県の施策・事業が岡山市立学校に適用されていないことが明確にされないまま、岡山県の計画（目標・指標）に岡山市立学校が含まれることにより、保護者や教職員に混乱を招いている。また、将来的にも混乱が生じるおそれがある。

次期計画を策定する際に、両総合教育会議が連携して、岡山市を含む岡山県の小中学生の実態を把握し、分析等を行っていくことも考えられる。

岡山市と岡山県の指標の違い(例)

主なもの	岡山市	岡山県	違い
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均レベル以上の学力 ○全国学力・学習状況調査の偏差値50以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差(+1ポイント) ○全国平均を超えることを目指す。 	指標が異なる。
不登校の減少	<ul style="list-style-type: none"> ○新規不登校児童生徒の減少 ○新規不登校児童生徒(小・中合計)の出現率0.47%以下 	<ul style="list-style-type: none"> ○不登校の出現割合(児童生徒1千人当たり)の全国平均との差(±0.0人) ○全国平均を目指す。 	
家庭学習の取組	<p>指標としていない。 時間ではなく、家庭での学習習慣や生活習慣を整えることが大切であることを保護者あてにメッセージとして伝えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合 ○小は、全国平均を超えており、さらに伸ばす。中は、全国平均を超える。 	指標とするかどうか異なる。
スマホの家庭ルール	<p>指標としていない。 各学校の実態に応じた内容で、生徒会等を活用するなどして家庭と子どもと一緒に考えることにしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○スマートフォン等の利用に関して「家庭のルールがある」と回答した児童生徒の割合 ○これまでの上昇傾向を維持し、現況値から5ポイント程度の増加(県独自調査) 	
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合	<ul style="list-style-type: none"> ○基準値(指標設定時)から、5ポイント以上上昇(市立全小・中学校の全学年の児童生徒を対象とした市独自調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国トップクラスを目指す(小6・中3の学年を対象とした全国学力・学習状況調査) 	指標設定の狙い・調査対象・目標値が異なる。

県の取組の方向性

岡山県では、県政の総合計画である第3次晴れの国おかやま生き生きプランや教育に関する個別計画である第3次岡山県教育振興基本計画に基づき、各種教育施策を推進しており、次の3点を最重点項目として取り組んでいます。

確かな学力の育成

子どもたちが自己実現を図るために必要な学力を確実に育成するため、学校経営の支援、一人一人の学習状況の的確な把握、授業改善の一層の推進等により、子どもたちの学ぶ力を育み、学力の確実な定着を図ります。

不登校を生まない魅力ある学校づくり

学校の組織的な対応、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家の活用や関係機関との連携を推進し、子どもたちの学習支援や生活支援を徹底することで、不登校を生まない魅力ある学校づくりを推進します。

夢を育む教育の推進

先を見通すことが難しい社会では、直面した課題に対して、他者と協働しながら主体的に解決していく力が求められることから、自らの夢を育み、それに挑戦していく教育を推進する中で、失敗も含めて様々な経験を積んでいくことにより、意欲や忍耐力、コミュニケーション力などのテストでは測ることのできない「非認知能力」を高める取組を進めます。

こうした力とともに、ICTを活用した創造性を育む学びや、海外との積極的な交流などにより、グローバルな視点を持って、県内外の様々な分野で主体的に活躍できる人材や、他者と協働しながら新たな価値を生み出し、本県の持続的発展に貢献できる人材を育成します。